

平成28年度 邑南町教育委員会点検・評価報告書

**平成29年9月
邑南町教育委員会**

目 次

はじめに	・・・	1
1 教育委員会の開催実績	・・・	1
2 教育委員の諸活動	・・・	4
3 教育委員の研修等	・・・	5
4 教育委員会だより	・・・	5
5 教育委員会の所見	・・・	5
6 第三者評価機関委員からの意見骨子	・・・	9
7 平成28年度邑南町教育委員会点検・評価表	・・・	12

(P 1 ~P 3 1)

資料 教育委員会点検・評価と公表についての自己評価の考え方

平成28年度教育委員会点検・評価と公表についての自己評価について

はじめに

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第26条により、教育委員会は、事務の管理及び執行について点検・評価を行い、その結果の報告書を議会に提出するとともに公表することが規定されています。邑南町教育委員会では、効果的な教育行政の推進と町民への説明責任を果たしていくために、邑南町教育施策の実施計画を基に、自己点検及び評価を行い、学識経験者の意見を踏まえて議会へ報告します。

1 教育委員会の開催実績

- ① 定例（毎月開催）の教育委員会…12回
- ② 臨時の教育委員会…2回

*詳しくは以下のとおりです。

開催日	主要議題（報告事項、予算関連事項、その他の事項除く）
4月13日	1. 文化財の町指定
5月19日	1. 邑南町立学校の学校医、学校歯科医及び学校薬剤師に関する規則の一部改正 2. 文化財の町指定 3. 平成28年度邑南町立小中学校主任等発令意見具申
6月29日	1. 要保護及び準要保護児童生徒就学援助の認定 2. 新規邑南町奨学生の決定 3. 邑南町外国語指導助手任用規則の一部改正
7月29日	1. 邑南町教育支援委員会の答申に基づく就学 2. 邑南町教育施策の実施計画
8月10日	1. 邑南町教育委員会の点検、評価及び公表に係る第三者評価機

	<p>関委員の委嘱</p> <p>2. 邑南町教育委員会点検・評価報告書の決定</p>
8月25日	<p>1. 区域外就学許可</p> <p>2. 要保護及び準要保護児童生徒就学援助の認定</p>
9月28日	<p>1. 指定学校の変更許可</p> <p>2. 要保護及び準要保護児童生徒就学援助の認定</p>
10月18日	<p>1. 指定学校の変更許可</p> <p>2. 要保護及び準要保護児童生徒就学援助の認定</p> <p>3. 邑南町教育支援委員会の答申に基づく就学</p>
11月11日	<p>1. 公民館長の選任</p> <p>2. 邑南町教育委員会公告式規則の一部改正</p> <p>3. 邑南町教育委員会傍聴人規則の一部改正</p>
11月24日	<p>1. 平成28年度区域外就学許可</p> <p>2. 平成29年度区域外就学許可</p> <p>3. 指定学校の変更許可</p> <p>4. 要保護及び準要保護児童生徒就学援助の認定</p>
12月19日	<p>1. 要保護及び準要保護児童生徒就学援助の認定</p>
1月16日	<p>1. 区域外就学許可</p> <p>2. 指定学校の変更許可</p> <p>3. 町指定有形文化財の現状変更許可</p>
2月16日	<p>1. 町指定有形文化財の現状変更許可</p> <p>2. 邑南づくり教育計画（案）</p> <p>3. 邑南町食育推進計画見直し（案）</p>

	<ul style="list-style-type: none"> 4. 教職員の人事 5. 邑南町奨学基金条例の一部改正 6. 邑南町教職員住宅管理条例の一部改正
3月22日	<ul style="list-style-type: none"> 1. 平成29年度要保護及び準要保護児童生徒就学援助の認定 2. 指定学校の変更許可 3. 邑南町奨学基金条例施行規則の廃止 4. 公民館長の選任 5. 邑南町公民館運営審議会委員の委嘱 6. 邑南町図書館長の任命 7. 邑南町郷土館長の任命 8. 邑南町文化財保護審議会委員の委嘱 9. 邑南町スポーツ推進委員の委嘱 10. 邑南町教育委員会事務局組織規則の一部改正 11. 邑南町フィンランド共和国交流派遣実施要綱の制定 12. 社会教育主事の任命

2 教育委員の諸活動

- ① 学校行事への出席（入学式、卒業式など）
- ② 町、教育委員会行事への出席（成人式など）
- ③ その他の活動（学校訪問、総合教育会議など）

*詳しくは以下のとおり

開催日	内 容
4月 4日	教職員着任式
4月 9日	小中学校入学式（日貫小除く）
4月12日	日貫小学校入学式
5月20日 ～3日間	学校訪問（5／20 日貫小、矢上小、石見中） （5／25 高原小、瑞穂小、石見東小、市木小、瑞穂中） （5／31 阿須那小、口羽小、羽須美中）
11月24日	教育民生常任委員会との意見交換会 本庁第2委員会室
1月 3日	成人式
1月16日	総合教育会議（（仮称）邑南町フィンランド青少年派遣事業案、石見中学校校舎等 全面改築、（仮称）邑南づくり教育計画案の策定、29年度予算）
3月11日	中学校卒業式
3月17日	小学校卒業式
3月27日	教職員退任式

3 教育委員の研修等

開催日	研修内容
7月21日	島根県 市町村教育委員会連合会研修 松江市
10月28日	教育委員会視察研修（～29日） 愛媛県内子町
11月29日	町教育研究大会 邑南町

4 教育委員会だより

平成28年度は、教育委員会だより「邑南の教育」を年3回発刊しました。

内容は、教育委員会の会議等の活動状況に加え、各学校の紹介、社会教育関係行事等を紹介しました。

5 教育委員会の所見

地方教育行政の組織及び運営に関する法律が改正され、教育の政治的中立性、継続性・安定性を確保しつつ、地方教育行政の責任体制が明確化された、新たな教育委員会制度が、平成27年4月1日から施行され、邑南町教育委員会では平成28年11月20日から新制度に移行しました。

毎年度「教育施策の実施計画」を定め、具体的な事業内容については「邑南の教育」を通じて、皆さんにお知らせしました。教育の充実のために様々な事業に着手し、その結果を踏まえ、事業の見直しや修正を行い、改善してきました。

また、新たなテーマのもと研鑽の機会を図り、視察研修等を行ない、今後の邑南町の教育の一助となるよう努めてまいりました。

学校現場状況に関しては、学校訪問の実施により、学校の抱える問題、課題の把握を行ない、懸案事項については、教育委員会として協議するなどし、体制の充実に努めるとともに新年度予算へ反映するよう努めました。

平成28年度からの10年間を見通した「邑南町第2次総合振興計画」を策定され、その教育分野を教育大綱として教育の方向性を明確に示しました。その教育大綱と「今後の教育のあり方」の答申との整合性を図り、次代を担う邑南の人づくりのための重要施策等を示す「邑南づくり教育計画」を策定しました。

この計画は保護者の願い、地域の願いを反映した共有できる人材像を「世界へ

も羽ばたける力」として、その育成を目指したものです。「教育」が果たす普遍的な役割に加え、主体性を持った地域の担い手育成とあらゆる世代が一体となった地域活性化の両立を目指すことにより、地域住民の主体的な参画による子どもたちの「世界へも羽ばたける力」の育成と地方創生の実現につながっていくものと考えています。邑南町の子どもたちが、高い志を持ち異質な考えとも積極的に出会い、豊かな表現力をもってコミュニケーションできる力及び課題解決に向かい続ける意欲を持てるよう取り組んでいきます。

(1) 学校教育の取組

平成28年度は文部科学省より、「少子化・人口減少社会に対応した活力ある学校教育推進事業」の募集があり、日貫小学校が全国8校のうちの1つに選ばれました。これは、小規模校のモデルとなるべき調査研究事業です。この事業により国から追加配置された教員（1名）を中心に、小規模校の特性を活かした教育活動の高度化を目指しました。児童が主体的・協働的に学ぶことで確かな学力の向上を図るだけでなく、地域に根差した学校づくりによって地域の活性化につながるよう取り組みました。

9月には、いじめのない学校づくりを進める子どもリーダーを育てることを目的に4回目となる「つながろう仲間！なくそういじめ」おおなん子どもの集いを開催しました。参加は、町内の小学6年生（複式校は5年生も参加）と中学2年生の全児童生徒約180名でした。ファシリテーター（会議進行役）養成講師の進行で、3時間コミュニケーション力を高める学習をしました。学習後の感想から、「コミュニケーションの大切さ」「人とつながることの楽しさ」「中学生へのあこがれ」「先輩としての自覚」「いじめは相手を理解することで、なくしていける」ことなどを子どもたちは学びました。

1月には、学校・保護者・地域関係者が一堂に集まり、地域の課題や夢を語り合い、プレゼン力を養うことを目的とした「おおなんドリーム学びのつどい」を開催しました。今年度は、島根県事業の「みんなのまちづくりプロジェクト」を活用しておおなんドリームでの取り組みの成果を冊子に仕上げました。

(2) 生涯学習の取組

5月には、久喜・大林銀山の『久喜 床屋製錬遺跡』について、町の史跡に指定しました。方鉛鉱という鉛鉱石に含まれる銀を抽出するため製錬を行った江戸時代前期の遺跡です。含銀鉛の製錬遺跡として、全国的にみても大変貴重であり、当銀山の性格を示す上でも重要な遺跡です。さらに、遺跡の保全・活用など地元の積極的な取り組みも評価しました。

2020 東京オリンピック・パラリンピックに向けて、邑南町が国から「ホストタウン」として認められました。この取組は、政府において地域の活性化を推進するため、合宿誘致等を通じ大会参加国・地域との人的・経済的・文化的な相互交流を図る地方自治体を「ホストタウン」として全国各地に広げることとされています。今後国の支援を受けながら、交渉国であるフィンランドが、2020年東京パラリンピック直前の合宿地として邑南町を選定されるよう、「草の根交流」を展開していきます。関連イベントとして「フィンランド祭り」を矢上交流センターで開催したり、ゴールボール競技の出前講座などを実施し、合宿誘致等への町民の理解と関心を高めるよう取り組みました。

8月に、町内の中高生8名を含めた総勢22名の交流団を交渉国であるフィンランド共和国に派遣しました。これは、中学生、高校生及び養護学校高等部生徒を海外に派遣し、現地の人々との交流を通して、豊かな国際感覚と日本人としての自覚と責任感を身に付け、グローバル社会に貢献できる人材の育成を図ることを目的としたものです。

10月には、健康センター元気館を主会場に、第13回日本オオサンショウウオの会邑南大会が開催されました。邑南町はもとより、県内外から300人以上の参加者があり、2日間にわたりオオサンショウウオに関する全国的な取り組みや研究成果の発表が16題行われたほか、1日目には邑南町からも日和子ども塾、出羽わんぱく学校、邑南町ハンザケ部による町内でのオオサンショウウオに関する取り組みの発表が3題行われました。

1月には、公民館活動推進委員と社会教育委員、そして公民館関係者が合同で

学ぶ場として、3回目となる「邑南町公民館研究交流集会」が矢上交流センターで開催され、115名の参加がありました。今年度は各公民館エリアで取り組んでいる「地域創生戦略プランと公民館の役割と価値づけ」をテーマに研究しました。

以上のように、子どもたちの生きる力を育む教育の振興、郷土を愛する心による地域文化の保存・伝承・創造、生涯学習や活動の支援により心豊かに学ぶことのできる町を目指して各事業を進めてきました。

6. 第三者評価機関委員からの意見骨子

I 学校教育 [学校教育課]

1) 点検・評価P2事務事業名「②実践的な学習の推進」について

・教師力向上の事業を実施されることはいいことだが、どのくらいの教職員が参加しているかわからない。全職員が参加しての取り組みとなってほしい。

2) 点検・評価P4事務事業名「③確かな学力を育む」について

・ALTについて、英語に慣れるための青少年を対象にした講座を考えてもらいたい。聞いていると慣れてくる。なかなか海外に行く機会もないので、是非考えて欲しい。

3) 点検・評価P11事務事業名「③その他」について

・学校事務共同実施の取り組みで事務の効率化を図ったとあるが、学校現場において職員全体で経費節減の取り組みを行ってほしい。

II 社会教育行政 [生涯学習課]

1) 点検・評価P13事務事業名「②家庭教育」について

・親学プログラムについては、各学校、保育所・園で実施してもらえようもっとPRをするべきである。

・親学プログラムについて、もっと積極的に取り組んでほしい。

・親学プログラムをPTA研修として取り組んで数年が経過する。

ワークショップ形式で進められる研修内容なので普段話せない人と気兼ねなく話すことができ楽しく取り組むことができる。他の学校でも取り組んでほしい。

・PTA研修にはスマホをテーマとした研修も最近多いようである。

研修会の計画にも時代にあったテーマ設定が必要ではないか。

2) 点検・評価P13事務事業名「③青少年教育」について

・青少年教育とあるが、少年を対象とした事業が多いのが実態ではないだろうか。もっと青年を取り入れた事業を展開してほしい。

3) 点検・評価P14 事務事業名「④成人教育」について

・町民大学も参加人数が少ないと言われるが、興味がないと広報をしても集まらない。広報のやり方を考えてみてはどうか。参加者を増やす取り組みをしてほしい。

・関心があるかないかで、参加者数などに影響があるが、フィンランド関連の取り組みについても、地道に情報を流していく必要があるのではないかと。

4) 点検・評価P18 事務事業名「①公民館の整備・充実」について

・公民館が海外でも注目されている。地域活動の母体となるのは、公民館である。しっかり公民館活動に取り組んでほしい。

5) 点検・評価P20 事務事業名「③多様な分野の学習の場の提供」について

・「邑南町の匠」展は、せっかくいい取り組みなので、展示だけでなく匠の話を聞ける講座を設定したらよかったのではないかと。

・館々交流もいいが、本当の意味で邑南町が一つになる取り組みを実施してほしい。

6) 点検・評価P25 事務事業名「②ふるさとの歴史・文化に関する学習」について

・伝統芸能の保存伝承の推進では何か応援できないだろうか。

伝統芸能保存継承団体間の連携とあるが、地域で頑張ってもできないことがあるので、点検する必要があるのではないかと。

7) 点検・評価P28 事務事業名「②住民自治による地域づくりの推進」について

・平成28年度の夢づくりプランの実績がないとの報告があったが、地域づくりの方向に移行しているので、夢づくりプランの任務は終わったのではないだろうか。夢づくりを活かして、何かを地域でするなら形を変えてやっていくのか、各地域の公民館で検討をしていく必要があるのではないかと。

8) 点検・評価P29 事務事業名「③食育の推進」について

・PTAの研修会でお弁当の日の取り組みについての講演があり、非常にいい内容であった。食育の推進により子どもたちが生きる力を身につける取り組みとなつてほしい。

9) 点検・評価P31 事務事業名「④読書の普及」について

・ボランティアでストーリーテリングの取り組みを続けているが、人材が不足している。活動を続けていくためにもボランティア養成の研修会などを行政で計画してもらえないだろうか。

平成29年 8月 9日

邑南町教育委員会の権限に属する事務の点検、評価に係る第3者評価機関

委員 日 高 豊 美
委員 日 野 直 樹
委員 栗 原 久美子
委員 鳥 居 清 枝
委員 品 川 隆 博
委員 日 高 歳 彦
委員 日 高 亘
委員 石 飛 正 一
委員 三 上 進
委員 日 高 久 志

7. 平成28年度邑南町教育委員会点検・評価表

別添のとおり

平成28年度邑南町教育委員会点検・評価表

【総合評価】

主な事業内容の実績評価をもとに総合的に判断する。実績評価の平均点で表示する。

【継続、廃止等】

「総合点検・評価」及び「課題」をもとに今後の方向性を示す。「継続」、「改善し継続」、「廃止」のいずれかを表示する。

【実績評価】

「主な事業内容と実施状況」欄にある事業内容ごとに実績に対する評価を行う。数値化可能なものは、目標達成度・主要成果を考慮して10段階で評価することとし、それ以外は、総合判断と同じく10段階で評価することとする。

I 学校教育 [学校教育課]

施策1 「力のある学校づくり」への支援

～つながり合い、学び合い、高めあう教室・学校づくり～

事務事業名	①人権・同和教育の推進		
総合点検・評価		総合評価	継続、廃止等
<p>教育委員会や学校において多くの研修機会を設けるとともに、教職員で構成する町教育研究会の人権・同和教育部会でも継続して職員研修を行い、学校全体で人権意識の高揚を図り、進路保障の取り組みに努めている。 今後も継続し、より一層推進していく必要がある。</p>		9	改善し継続
課 題			
<p>転入教職員人権・同和教育研修は、転入してきたすべての教職員が参加している。小中学校職員研修会は、今年度は月曜開催にしたため、校内の研修として全職員で参加する学校もあり、昨年度よりも40名程度増の79名が参加した。 今後も継続して開催し、できるだけ町内すべての教職員が参加できるようにしたい。</p>			
主な事業内容と実施状況			実績評価
<p>○人権講座(学級づくりセミナー) 町教育委員会では教職員対象の研修会を実施した。また、各学校でも年間計画を立てて研修を実施した。 ・邑南町教育研究会 人権・同和教育部会 4回 延べ 60名 ・邑南町教職員対象研修会 2回 延べ 97名 (転入教職員同和教育研修会18名参加・小中学校職員研修会 79名参加)</p>			9

事務事業名		②実践的な学習の推進	
総合点検・評価		総合評価	継続、廃止等
<p>どの研修会でも積極的に学ぶ教職員の姿が見られた。研修の成果を授業に生かす学校が見られ、意欲的に学ぶ子どもの姿につながっていた。昨年度同様、学び合い授業づくりのモデル校、英語指導力向上セミナーの町教育研究会英語部会が主体的に取り組んでいたことに加え、今年度は数学的な考え方セミナーで研修したことに学校全体で取り組み、児童の学習意欲や学力調査結果の向上につなげた学校もあった。</p>		9	改善し継続
課 題			
<p>教師力向上のための研修会は、5年間継続して開催している。前年度の内容や参加者の感想などをまとめた研修案内を教職員に配布したり、邑南町教育研究会との連携を深めるなど、本研修の意義を管理職に伝達し、より多くの教職員が主体的に研修に参加できる工夫が必要である。</p>			
主な事業内容と実施状況			実績評価
<p>○教師力の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学び合い授業づくり モデル校4校（口羽小、矢上小、日貫小、石見中）各3回開催 モデル校以外の7校 各1回開催 ・学び合い授業づくり研修会 1回開催（19名参加） ・説明文の授業づくり 1回開催（20名参加） ・調べ学習セミナー 1回開催（20名参加） ・数学的な考え方セミナー 2回開催（計16名参加） ・英語指導力向上セミナー 3回開催（計25名参加） ・ふるさと講座、おおなん郷土塾 各1回開催（計35名参加） 			9

事務事業名		③確かな学力を育む	
総合点検・評価		総合評価	継続、廃止等
<p>①基礎学力の向上・定着及び学習意欲の向上を目指した事業では、参加した子どもは楽しく学ぶことができた。花まるさんすう教室では昨年度よりも参加者が増え、年度末のアンケートは、ほとんどの子どもが「算数が好きになった、わかるようになった」と回答していた。調べ学習相談会に参加した子どもは、邑南町調べる学習作品展に内容の濃い作品を出品していた。辞書引き学習会では、意欲的に辞書引きに取り組む子どもの姿が多く見られ、その後各学校で継続して辞書引きに取り組む子どもがほとんどであった。全体として、学習意欲の向上は達成することができた。</p> <p>また、全国学力・学習状況調査の町全体の小学校6年生の平均正答率は、平成27年度に比べ国語・算数ともに上昇し、全国平均以上になった。中学校3年生の平均正答率は、平成19年度から年によって波があるが、平成28年度も国語は全国平均を上回り、数学は下回る結果となった。</p> <p>②定期的に学校司書の連絡会を開催した。これにより、各学校での取り組みについて情報共有する事ができ、業務効率の改善につながった。また、県立図書館主催の研修会に参加する事で、新しい考え方を取り入れることができた。</p> <p>③子ども笑顔キラキラサポート事業では、学校からの配置要望人数に対してほぼ対応できた。</p>		8.7	改善し継続

課 題	
<p>①基礎学力の向上・定着では、希望者参加型学習会であり、学習に支援が必要な子どもが必ずしも参加できているわけではない。学校や家庭とも、より連携していく必要がある。</p> <p>学力調査では、各学校で調査結果・分析を踏まえた取組みがされている。教育委員会として、各学校の効果的な取組みを町全体へ説明する必要がある。</p> <p>②図書の廃棄について、教育委員会から破棄基準を提示できておらず、学校毎の判断に任せている状況である。町立図書館とも連携し、邑南町としての廃棄基準作成が求められる。</p> <p>③子ども笑顔キラキラサポート事業では、各支援員が効果的な支援ができるよう研修（支援、人権、守秘義務などの内容を含む）を充実させ、あわせて支援員が関わる子どもの支援に役立つような検討の場を設けるなど、支援員の資質向上をはかる必要がある。</p>	
	実績評価
<p>○基礎学力の向上・定着</p> <p>基礎学力向上・定着を図るために、算数・数学や英語、家庭学習に重点を置いた事業を実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・花まるさんすう教室 3地域で7回ずつ実施、学習プリント配信システムを活用 ・中3夏の学習会 3校の中学3年生全員参加 ・調べ学習相談会 小学1年～中学3年生対象 各3地域1回ずつ開催 ・調べる学習作品展 年2回開催 ・漢字カルタ大会 小学1年～4年生対象 年1回 ・辞書引き学習会 小学1・2年生対象 3地域1回ずつ開催 	9
<p>○学校図書館活用の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・定期的に学校司書の連絡会を実施し、各校の取組みについて情報共有を行った。 ・学校司書の配置(平成21年度から全11校に1名ずつ学校司書を配置) ・県の「子ども読書活動推進事業」を活用し、学校司書の人件費の確保の一助とした。 ・研修会で学んだ手法を取り入れることができた。 ・授業において、子供達が自ら調べ、プレゼンテーションする事で、自学習慣が身についてきている。 ・学校図書館等を活用した調べる学習作品展の実施 前期129点、後期356点の申込みがあった。 	9
<p>○子ども笑顔キラキラサポート事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・低学年複式学級支援員2人(市木小学校・日貫小学校)を配置した。 ・生活支援員を小学校3校に5人配置した。 ・学習支援員を小学校7校に10人、中学校2校に2人配置した。 	9

<p>○学力調査</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全国及び島根県学力調査を実施し、その調査結果から、各校において児童生徒一人ひとりの課題を明確にし、改善の方向性を見出すための分析を行うよう指導した。年度途中に各学校に聞き取りを行った結果、学校の実態、分析を踏まえて取組みが行われている。 ・全国学力・学習状況調査(対象:小学6年生、教科:国語・算数 / 対象:中学3年生、教科:国語・数学) ・島根県学力調査(対象:小学3年生から6年生、教科:学年によって違うが、国語・算数・社会・理科 / 対象:中学校全学年、教科:学年によって違うが、国語・数学・社会・理科・英語) 	9
<p>○外国語指導助手招致(小学校)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国際文化への関心を高め、英語と親しむことを目的に配置した。 ・外国語指導助手(ALT)の知識を広げるため中学校の授業を数回視察した。 ・小学校 1名(1年目) 8校/週1回授業 	8
<p>○外国語指導助手招致(中学校)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基本的な英会話能力の向上を図るために配置した。 ・外国語指導助手(ALT)の知識を広げるため小学校の授業を数回視察した。 ・中学校 1名(3年目) 3校/週1~2回授業 	9
<p>○教育設備の活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・電子黒板、教育用パソコンなどの設備を活用した授業の実施 ・予算的な課題が多く、各設備が老朽化しており、教材及び設備を活用した授業は、教職員の努力に依存している。 ・各学校にプロジェクター、スクリーン、書画カメラの3点セットを整備した。 	8

事務事業名	④特別支援教育体制の構築		
総合点検・評価	総合評価	継続、廃止等	
<p>特別支援相談ネットワークは学校や保育所・園に浸透し、相談件数も増えてきているが、学校、保護者からの相談は少ないため、開催時間等について工夫する必要がある。</p> <p>通級指導教室では、各学校の児童生徒の状況に応じた指導ができた。</p> <p>教育支援センター(たけのこ学級)の活動では、定期的な学校訪問で実態把握、情報交換を行うことができた。また、町スクールソーシャルワーカー(SSW)や石見養護学校相談支援スタッフと連携し、児童生徒の特性にあった対応ができた。また、必要に応じて学校と情報共有の場を設けることができた。</p> <p>いじめ対応支援事業のQUアンケートでは、各学校で学級づくり、人間関係づくりに活用されている。</p> <p>「おおなん子どもの集い」では、特に小規模校の子どもたちにとって意義のある活動となった。また、小学生が中学生から中学校生活の様子を直接聞くことができ、進学に向けての不安解消と期待感につながっている。</p> <p>教育支援委員会では、保育所・園及び学校からの要望に応え、年2回開催し、幼児・児童・生徒の就学について慎重に協議し、町教育委員会に答申した。</p>	9	改善し 継続	
課 題			
<p>特別支援相談ネットワークを活用し、支援の必要な子どもを対象に相談支援ファイルすこやかを手渡しているが、就学時や進級時にファイルを持っていることが引き継がれていない等、十分活用できていないことがある。</p> <p>通級指導教室は、各小中学校と情報交換、連携を深め、継続した支援を実施する。</p> <p>教育支援センターでは、中学校卒業後の支援について困難であるため出身中学校や進学先の高校、地域と連携を図っていく。</p> <p>QUアンケートの結果は、全国・県学力調査とも比較し、授業づくり・学級づくりの資料として十分に活用されるよう教育委員会主催でのQUアンケート活用の研修会を実施し、各学校でのQUに対する認識を深め、全校での取組みとなる体制の整備が必要である。</p> <p>「おおなん子どもの集い」では、各学校での生徒会活動や児童会活動につながっていくように、今後学校との連携を深める必要がある。</p> <p>SSWによる支援を必要とする児童生徒が増加しており、ケース会議、保護者面談、家庭訪問の件数も増えている。</p> <p>教育支援委員会については学校内の支援検討会から町教育支援委員会へのつながり、連携について、より一層の充実が図られるよう周知する。また、学校においては児童生徒数の規模にかかわらず、保護者との連携を図り、町教育支援委員会への迅速な対応を心がけていくよう意思統一が必要と考える。</p>			

主な事業内容と実施状況	実績評価
<p>○特別支援相談ネットワークの推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・邑南町特別支援合同相談会の定期開催を計12回、別で1回開催した。 相談件数:33件 (相談内容により検査や保護者との面談も実施した。) ・特別な支援の必要な子どもの早期発見・早期支援につなぐため、夏の保育所・園巡回相談を各保育所・園(町内9箇所)を7月後半から8月中に実施した。 ・特別支援相談ネットワーク総会を開催し、その後研修会を開催し、31名の参加があった。 ・特別支援連携協議会を開催し、平成28年度中の活動・連携について協議した。 	8
<p>○教育支援委員会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育支援委員会の審議会を2回開催した(審議対象者9名)。 ・平成27年度審議対象者12名の就学後の検証 ・平成28年度審議対象者9名の実態把握(保育所・園、小学校訪問) ・平成28年度審議対象者9名の就学支援についての保護者面談を個別に実施 	10
<p>○通級指導教室</p> <ul style="list-style-type: none"> ・担当職員 瑞穂小:3名 瑞穂中:1名が配置されている。 ・平成28年度新規通級利用者:小学校9名(総数23名)、中学校4名(総数10名) 	9
<p>○教育支援センター(たけのご学級)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用者:12名(単発の相談含む) ・延べ利用人数:422人 ・学校巡回:小学校8校、中学校3校を巡回 ・相談支援チーム等関係機関と必要に応じて情報交換ができた。 ・県立石見養護学校と支援の相談等連携を図った。 	9
<p>○スクールソーシャルワーカーの活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スクールソーシャルワーカーを1名配置し、いじめや不登校などの問題に対する教育相談体制を整備した。 ・定期的に各小中学校を巡回訪問 ・個別に家庭訪問も実施 ・ケース会議にも参加し、関係機関と連携を図り、問題解決に取り組んだ。 ・平成28年度の支援対象の児童生徒は小学校3名、中学校4名。訪問回数は学校や家庭など含め192回。 	9
<p>○いじめ対応支援事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・町内小中学校で1学期と2学期の2回、アンケートQUを実施し、学級集団の状況を把握・分析していじめ対応の実践につないだ。 ・町内の中学2年生と小学6年生(複式の学校は5年生を含む)を対象に『つながろう仲間!なくそういじめ』おおなん子どもの集いと題したワークショップを外部講師を招いて開催した。 ・学校や教育委員会、役場関係課と警察、児相、法務局などの関係機関で構成する「邑南町いじめ問題対策連絡協議会」を開催し、町内でのいじめの現状といじめ問題に対する関係機関での連携について確認した。いじめの理解といじめに対する具体的な取組について、研修会を開催した。 	9

事務事業名	⑤就学環境の充実		
総合点検・評価		総合評価	継続、廃止等
<p>スクールバスについて、概ね計画どおり運行できた。 就学援助費及び通学助成費の給付、就学時健康診断は、予定どおり実施することができた。</p>		9.7	改善し 継続
課 題			
<p>スクールバス車両の老朽化により故障が多発し、維持費が高むとともに安全な運行に支障を来たす恐れがある。計画的に順次更新し、利用者の安全輸送を確実にを行うための車両整備が必要である。 就学時健康診断では、転居予定者について現居住地校区の小中学校での健診を案内したため、転居先の校区の小中学校での受診を要望される事例もある。転入予定者や転居予定者について早めに把握し、対応する必要がある。</p>			
主な事業内容と実施状況			実績評価
<p>○スクールバス運営 ・児童生徒の通学手段を確保するため、スクールバス10路線(雪田線、宇都井線、戸河内・長田線、下口羽・上田線、高原線、出羽線、市木線、日和線、日貫線、日貫山の内線)を運行し、学校教育活動の支援に努めた。 ・土日等の学校行事の実施により、定期便以外の時間帯にスクールバス運行が必要な場合には、学校の要望に応じて臨時便を運行した。 ・老朽化により故障が頻発していた市木線の車両を更新した。 スクールバス市木線車両購入 1台 三菱 ローザ 29人乗り 4WD(平成29年1月納入)</p>		9	
<p>○就学援助費の給付 ・要保護、準要保護児童生徒就学援助費の支給 認定者:小学生92名 中学生53名 支給額:小学生6,125千円 中学生5,185千円 ・特別支援就学奨励費の支給 該当者:小学生2名 中学生1名 支給額:小学生59千円 中学生49千円</p>		10	
<p>○通学助成費の給付 ・通学費助成 該当者:小学生15名 中学生5名 支給額:小学生258千円 中学生49千円</p>		10	
<p>○就学時健康診断 ・就学時健診:小学校8校を会場に10月下旬から11月に実施 対象者82名 実施内容:内科・歯科検診、視力検査、面接</p>		10	

I 学校教育 [学校教育課]

施策2 「地域に開かれ、地域と結ぶ学校づくり」への支援

～子どもたちの自信を育て、地域に信頼される学校～

事務事業名	①地域を担う意識の育成		
総合点検・評価		総合評価	継続、 廃止等
<p>各学校で実施形態、内容等は違うが、それぞれ総合的な学習の時間の年間計画にもとづいて、講話や体験が行われていた。 医療講話は、公立邑智病院事務長や邑南町出身の医師に各校で依頼し、羽須美中と瑞穂中が1回ずつ実施した。 農業後継者育成プログラムは、島根大学生物資源学部准教授に協力していただき、10月に田所公民館で実施した。分析結果を町民に伝え、パネルディスカッション・参加者の感想交流を行った。2年計画の2年目のため、農業後継者育成プログラムは平成28年度で終了した。</p>		8	改善し 継続
課 題			
<p>校長会や事業説明会等でキャリア学習の実施について依頼や説明をしているが、より浸透を図るため、教頭会でも説明・質疑を行ったり、必要によっては担当者会を開いたりして、町主催の農林業講話と学校の年間計画をしっかりとすり合わせていくことが大切と考える。 この取り組みにより、地域を担う生徒の意識の育成が一層期待できる。</p>			
主な事業内容と実施状況			実績評価
<p>○キャリア学習 ・農林業体験 中学1・2年生を対象にいずれかを1回実施 ・医療講話 中学3年生を対象に研修 2校で1回実施(羽須美中、瑞穂中)</p>			8

事務事業名	②地域との共同学習		
総合点検・評価		総合評価	継続、 廃止等
<p>おおなんドリーム学びのつどいに向け、中学校の中には独自に保護者、地域の人に向けて提言発表会を開き、課題を見つけ、実際にさらに深まった活動を行ってそこから見いだした課題を発表している学校もある。また、つどいで発表した内容を、発表者が変わっても継続して取り組んでいる学校もある。続けていくことで、各学校の主体性が昨年度以上に生まれてきている。</p>		10	継続
課 題			
<p>おおなんドリーム学びのつどいは日曜日開催であるため、発表者以外の町内の小中学生全員の参加とはならないのが現状である。今年度は、当日を日曜参観日として全校で参加した学校もあったが、インフルエンザ等により急遽全員参加ができなくなった学校もあった。子どもたちのふるさとへの愛着や地域への貢献意欲をより高めるためには、全員参加が効果的だと考えるが、授業時数の確保の問題もあり現実には難しい状況である。</p>			
主な事業内容と実施状況			実績評価
<p>○ふるさと教育の推進 ・年度初めに「ふるさと教育担当者会」を中学校区単位で開き、各校担当者と公民館主事、学校教育課、生涯学習課職員で年度の方針を確認した。 ・各小中学校において、割り当てられた予算の範囲内で地元の人的資源や環境資源を活用し、講演会や体験活動を計画し、実施された。</p>			10
<p>○夢響き合い塾(おおなんドリーム学びのつどい) ・今年度は1月29日に開催した。参加校は、小学校5校、中学校3校、高校1校、特別支援学校1校が集い、互いに町への提言を発表した。どの学校も1年間取り組んだ地域とのつながりを生かした体験活動をもとに、邑南町への思いや願いを堂々とプレゼンしていた。</p>			10
<p>○学校関係者評価 町内小中学校11校で学校関係者評価委員を選任し、各校で年3回以上委員会議や委員参観の日を設定し、学校の自己評価結果を踏まえた評価を実施し、町教育委員会に報告された。結果は、保護者等へ公表した。</p>			10

事務事業名	③学校の魅力化		
総合点検・評価		総合評価	継続、 廃止等
<p>小規模校のメリットを最大化させながらデメリットを最小化させる事をテーマに日貫小学校において実施された。</p> <p>予算の中で次期学習指導要領にも盛り込まれるプログラミング学習を実施するためのロボット学習キットを購入した。ロボット学習は6月、10月、11月、12月に実施した。また、地域の中での学習を活性化させるためにのぼり旗を作成し、教職員がそろいのウインドブレーカーを作成して積極的に地域を題材とした学習に取り組んだ。</p> <p>また、保育所・園、小学校、中学校との交流を意識し、積極的に他校と交流学習を行った。</p>		9	改善し 継続
課 題			
<p>保育所・園、小学校、中学校との交流だけでなく、町内の高校、養護学校との交流も行って幅広い仲間とのコミュニケーション能力を身につけていく必要がある。</p> <p>公民館とも連携して取り組みを行ったが、公民館と年間計画を作成し、ふるさととの連携をより深め、探究型学習を一層充実させ、地域の問題解決に参画しようとする力をさらにつけさせる必要がある。</p>			
主な事業内容と実施状況			実績評価
<p>○教育の魅力化事業（日貫小学校対象）</p> <p>プログラミング学習の実施（6月、10月、11月、12月）</p> <p>地域の中での学習を活性化させるため、のぼり旗を作成</p> <p>地域を題材とした学習への取組（教職員がそろいのウインドブレーカーを作成）</p> <p>保育所・園、小学校、中学校との交流や他校との交流学習を実施</p>			9

I 学校教育 [学校教育課]

施策3 「安全・安心な教育環境づくり」への支援

事務事業名	①学校施設の整備		
総合点検・評価		総合評価	継続、廃止等
<p>・起債事業等を活用し、学校施設の環境改善に努めた。</p> <p>・石見中学校体育館の改修工事については、耐震型吊下式バスケットゴールを設置し落下防止対策を実施し、併せて床面の塗替改修を行った。</p> <p>・瑞穂中学校体育館の改修工事については、屋根材の全面防水塗装工事を実施し、天井からの雨水漏水対策を行った。</p> <p>・日貫小学校体育館の改修工事については、緊急的に対応を要するため一部天井材の落下防止対策および腐食した吊下式吊輪の撤去を行った。</p>		7	改善し 継続
課 題			
<p>各学校とも老朽化が著しく、緊急性を要する修繕工事が頻発し、応急的な修繕を繰り返しているのが現状である。</p> <p>児童生徒の快適な学習環境を創出するため、大規模改修が必要な学校も多く、今後も中長期的な学校整備計画を進めていく必要があると考える。</p>			
主な事業内容と実施状況			実績評価
<p>○学校施設の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・石見中学校改修工事(屋内運動場非構造材落下防止対策及び床改修工事)完了 ・瑞穂中学校改修工事(屋内運動場折半屋根防水工事)完了 ・日貫小学校改修工事(屋内運動場非構造材落下防止対策工事)完了 ・応急措置が必要な箇所については、随時修繕を行った。 		7	

事務事業名	②児童生徒の健康安全対策		
総合点検・評価		総合評価	継続、廃止等
<p>児童生徒の安全対策で急務となるのが通学路の安全確保であり、防犯パトロールと通学路の安全対策の両面から実施していく必要がある。</p> <p>防犯パトロールは、児童生徒の登下校の安全確保に十分な効果を上げている。</p> <p>また、通学路の安全対策を実施するために、道路管理者、学校、警察などで組織する「通学路安全推進部会」を活用し、危険箇所の合同点検、対策協議を行い、早期の対策必要箇所は対策を実施した。</p>		9	改善し 継続
課 題			
<ul style="list-style-type: none"> ・通学路安全推進部会において、毎年通学路の危険箇所の抽出や課題の検討、関係部署への働きかけを行い、危険箇所解消を図る必要がある。 ・子ども安全センターの青パト隊は、各支部で10人前後の隊員がおり、パトロールに従事している。近年、隊員の高齢化によりパトロールに従事できる方が減ってきており、パトロールなどの活動の継続が難しくなっている。現隊員へのパトロール活動の継続の呼びかけを行うとともに、広報活動等により新規隊員の加入促進を図っていく必要がある。 ・児童生徒の健康診断後の結果通知書や保健調査表の様式が学校ごとに異なるため、邑南町で統一し事務の効率化を図りたい。 			

主な事業内容と実施状況	実績評価
<p>○防犯・安全教育の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各学校でそれぞれ登下校時の安全指導、あいさつ運動、通学路の安全点検、CAP(子どもへの暴力防止)研修、避難訓練などの講習(研修)会を開催した。 	9
<p>○邑南町子ども安全センター</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域住民の防犯意識の高揚と安全活動ボランティアの育成を図るための取組を実施した。 ・6月に青パト隊の防犯パトロール講習会を実施した。 ・青色回転灯によるパトロール(年末特別警戒活動等)を行うなど各地域で防犯のための各種活動を実施した。 ・従事者数:115名 ・登録車両台数94台(内公用車3台) 	9
<p>○学校保健安全衛生対策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校保健安全法で定められている定期健診の実施及び修学旅行前健診等を実施した。 〔環境保健公社委託検診(心電図等)、内科検診、耳鼻咽喉科検診、眼科検診、歯科検診〕 ・公社委託検診の実施日に欠席した児童生徒については、公立邑智病院において心電図検査のみを後日実施する予定であったが、今年度は対象者全員が当日受検したため不要だった。 ・学校衛生基準に基づき、学校薬剤師及び養護教諭等と連携してダニアレルギー検査、照度検査、空気検査を実施し、環境衛生の確保に努めた。 	9

事務事業名	③その他		
総合点検・評価		総合評価	継続、廃止等
<p>学校事務共同実施連絡協議会では、事務職員未配置校において、事務の平準化のためグループ内での支援体制を構築し、年間を通して滞りなく事務処理を行い、学校運営に寄与することができた。</p>		9	改善し 継続
課 題			
<ul style="list-style-type: none"> ・年々増える事務量に対して、効率の良い方法を探っていく必要が生じている。 ・新たに学校へクラウド版サイボウズを導入したが、どのように今後運用していくか再検討する必要がある。 ・邑南町奨学金返還に係る滞納者について適切に対応していかなければならない。 ・教職員住宅では、今後、必要な住宅戸数、地域を検討し、計画的な教職員住宅の管理・運営に努める必要がある。 			
主な事業内容と実施状況			実績評価
<p>○学校事務共同実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校経営に寄与するため、学校事務部門の充実、強化の推進を図った。 ・学校事務共同実施連絡協議会で、学校事務職員、町教育委員会や学校管理職との連携や、共同実施会を開くことで事務の効率化を探った。 ・平成26年度より、11校の内、事務職員未配置校1校という状況になり、これまでどおりの活動を続けることが困難となっている。そのため、西部(石見地域、市木)、東部(市木を除く瑞穂地域、羽須美地域)の2グループに分かれて活動を行い、事務職員未配置校への支援の継続を行った。 		9	
<p>○邑南町奨学金貸与事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高等学校等、高等専門学校、専修学校、大学校または大学等に在学し、経済的に困窮している者に奨学金を貸与する。 ・平成28年度末時点貸与者7名(うち新規貸与者2名) ・平成28年度末時点償還対象者23名 ・平成28年度末時点据置期間または償還猶予対象者5名 		9	
<p>○教職員住宅</p> <ul style="list-style-type: none"> ・根布教職員住宅2戸(羽須美地域)を建設整備し、教職員の住宅確保に努めた。 ・教職員住宅の保守・点検を行い、教職員が安心・安全に生活できるように努めた。(羽須美地域8戸、瑞穂地域13戸、石見地域15戸) ・修繕が必要な個所は随時修繕を行った。 		9	

II 社会教育 [生涯学習課]

施策1 「社会教育」

～人づくり・地域づくり・町づくりを推進する社会教育～

事務事業名	①地域学校		
総合点検・評価		総合評価	継続、廃止等
<p>「将来の隣人」である子どもたちに、ふるさとを学校にした地域のフィールドにおいて、「地域の宝を体験する」、「地域の人を体験する」活動について具体的な動きが見えてきた。</p>		8.3	改善し継続
課 題			
<p>全公民館エリアの立ち上げに向けて取り組んできたが、4カ所の未実施地域のうち、今年度立ち上がったのは3カ所である。 引き続き、説明会及び研修会等実施し、来年度、全地域完全実施に向け努力する。</p>			
主な事業内容と実施状況			実績評価
<p>○研修会の開催 ・予定していた2回の研修会が実施できず1回のみとなった。 ・香川大学清國先生を迎え、町内3地域の活動事例を発表、その後、全地域参加のワークショップを行った。他地域での活動を知り、活動の発展や見直しのきっかけとなる研修会となった。</p>			7
<p>○地域学校の開設 ・説明会や研修会を開催し、未実施4カ所の全地域立ち上げを目指したが、3カ所にとどまった。</p>			8
<p>○地域学校開設に向けた説明会の実施 ・公民館等との連携により、各地区併せて7回の説明の機会を得た。</p>			10
<p>○おおなンドリーム学びのつどいの開催 ・今年度より、担当部署を学校教育課に移管した。</p>			-

事務事業名	②家庭教育		
総合点検・評価		総合評価	継続、廃止等
<p>子育て関係団体を含め社協、各地域プロジェクト等との有機的な連携のもと、地域総がかりで子育てを行うという土壌づくりを意識した取り組みとなった。 また、子育てに関する各種団体の多様な価値観を結集し、「将来の隣人」である子どもたちに真摯に向き合える体制が構築できたのではないかと考える。</p>			

課 題	8.7	改善し 継続
<p>島根県が推奨する「親学プログラム」及び「親学プログラム2」の実施について、特に小中学校及び保育所・園への周知に取り組んだが、実施の目的の理解までには至らなかった。</p> <p>各小中学校のPTA研修会等の場を活用し、保護者同士の連携、強化に努めていく等周知方法の検討が必要である。</p>		
主な事業内容と実施状況		実績評価
<p>○家庭教育の支援</p> <p>・「親学プログラム」、「親学プログラム2」を活用し、各学校PTA研修会、各保育所保護者会研修会を2回開催し、家庭教育に関する学習機会を提供した。</p>		5
<p>○子育て講演会の開催</p> <p>・子育て支援ネットワーク協議会を通して、特に保育所・園と連携し、就学前保護者対象に現状に即した学習機会を提供した。</p>		10
<p>○子育てに関するネットワークの構築</p> <p>・子育てに関する各種団体及び関係機関の有機的な連携を図り、それぞれの立場での価値観の基、「地域総がかり」を念頭に置いた、地域との一体感を持った取り組みを行った。その成果として、わくわくフェスタ2016の実施となった。</p>		10
<p>○思春期子育て講座の開催</p> <p>・「性・命・人権教育講演会」を中学生対象に保健課、学校と連携し実施した。保護者にこの講演会への参加を呼びかけ、共に命の大切さを学んだ。</p>		10

事務事業名	③青少年教育		
総合点検・評価		総合評価	継続、 廃止等
<p>地域素材（ひと、もの、こと）を生かした体験活動を実施してきた。ふるさとを知り、誇りに思い、大好きな地域の将来を見据え、自身がどのように将来地域に貢献できるかというストーリー性のある取り組みができた。</p>		8.3	改善し 継続
課 題			
<p>地域の思い、願いをどのように子どもたちに伝え、そして残していくのかというシステムの構築について、地域の教科書という明確なものは残せなかった。今後、地域素材（ひと・もの・こと）を生かした後世に残していけるプログラム等の開発が求められる。</p>			
主な事業内容と実施状況		実績評価	
<p>○放課後子ども教室(放課後子ども総合プラン)</p> <p>・公民館、児童クラブとの連携のもと、地域ボランティアの協力を得て体験活動を中心に12回開催した。</p>			10
<p>○プレーパーク事業(地域学校)</p> <p>・各公民館において、地域素材を生かした体験活動を中心に、週末及び長期休業中に実施した。</p>			10
<p>○土曜学習の実施</p> <p>・地域の文化を学ぶ体験会やフィンランド人を講師に招いてのフィンランド文化に触れる講演会等を3回開催し、子どもたちにとって多様な文化を知るきっかけとなった。</p>			5

事務事業名		④成人教育	
総合点検・評価		総合評価	継続、廃止等
<p>社会の要請であるいろいろな地域課題について、本町の将来を見据えた学習機会の提供に努めた。 また、成人の方を対象とした町内県立学校開放講座を2講座開設した。 石見養護学校で、木工および陶芸教室を実施した。</p>		8	改善し継続
課題			
<p>地方創生について、特に地域課題の解決に向けた学習機会の場の設定が急務である。</p>			
主な事業内容と実施状況			実績評価
<p>○邑南町民大学の開催 ・各地域の課題について、公民館や関係課と連携し、その課題に対する解決策等の方向性を学習という場を通して、共に学び合う機会を5回設けた。</p>			8

事務事業名		⑤ボランティア活動の機会の充実	
総合点検・評価		総合評価	継続、廃止等
<p>学校支援からのボランティア育成、そして組織作りなど特にボランティアの育成及び養成について、学校支援を中心とした「応援団」の設置に努めた。</p>		7	改善し継続
課題			
<p>ボランティアの高齢化や固定化が進んでいる。今後は、保育所、小中学校及び高校を核とした人材の育成及び養成に努めていく必要がある。</p>			
主な事業内容と実施状況			実績評価
<p>○ボランティアの活動支援 ・地域の資源を活用した人材育成のためのボランティア活動、研修機会や情報の提供を行った。</p>			7
<p>○人材バンクの整備 ・公民館を拠点に活動している各種団体等からの支援、学校支援ボランティアの情報等共有し、必要に応じて地域活動を支援した。 ・新規に食のボランティアを立ち上げ、学校や公民館の活動を支援した。</p>			7

事務事業名		⑥学習支援者の確保と育成	
総合点検・評価		総合評価	継続、廃止等
<p>要求課題での学びから、各地域等必要課題の解決に向けた総合的な研修会等の実施により、その多様性に応えた。</p>		9.5	改善し継続
課題			
<p>学びからのネットワークについて確実に広がったという結果には繋がらなかった。 それぞれの団体の情報等を共有しながら、指導者の質の向上を含めた研修の場を提供していく必要がある。</p>			

主な事業内容と実施状況		実績評価
○少年団体育成指導者の育成 ・学校支援ボランティアの研修を、町民大学等に併せて実施した。		9
○社会教育主事の育成 ・社会教育の指導者養成のため、公民館主事が広島大学での社会教育主事研修(1ヶ月)に参加し、資質向上に努めた。		10

事務事業名	⑦団体・グループの育成、支援		
総合点検・評価		総合評価	継続、廃止等
研修会等の充実を図った。 子ども会育成会の支援について、保険加入促進や学習機会についての情報提供は例年どおり実施した。		7.5	改善し継続
課題			
特に、子ども会育成会について、地域学校の受け皿、ふるさと学習の推進団体として子ども会育成会の目的に応じた多様な活動パターンを検討し、地域での子育てに関する実働的な役割を果たすべく団体として強化する必要がある。 そして、保険加入促進のみの支援となっているため、各団体の要求について、調査する必要がある。			
主な事業内容と実施状況		実績評価	
○社会教育関係団体等の育成支援 ・社会教育関係団体等のニーズに応じた研修会の開催や学習機会についての情報提供、各種イベントでの交流の推進を図った。			8
○子ども会育成会の支援 ・子ども会育成会のニーズに応じた研修会の開催や学習機会についての情報提供を行った。			7

事務事業名	⑧学習情報の提供		
総合点検・評価		総合評価	継続、廃止等
本町広報誌の連載、教育委員会及び公民館だより等、紙媒体での情報提供は充実したものとなった。併せて、ホームページやSNSを活用し、電子媒体での情報提供も充実したものとなった。		8	改善し継続
課題			
電子媒体での情報公開が充実してきたものの、より有意性を確実に理解するため、その専門的知識を養成する研修を行う必要がある。			

主な事業内容と実施状況	実績評価
<p>○広報・啓発活動の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・町広報誌・教育委員会だより・公民館だより・町ホームページ・SNS・ケーブルテレビ等や公民館まつり等のイベントでの呼びかけにより、生涯学習活動の普及、啓発に努めた。 ・各地域における情報が全町はもとより町外にも伝わるよう、各機関が連携した情報提供に努めた。 	8
<p>○情報提供資料の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公共施設に充実した情報提供資料を備えた。 	8

II 社会教育 [生涯学習課]

施策2 2020東京パラリンピック合宿招致

～ユニバーサルな意識を確実に後世に残すために～

事務事業名	東京パラリンピック合宿招致		
総合点検・評価		総合評価	継続、廃止等
<p>講演会やセミナーの実施及びパラリンピアンの方との交流を通して、ユニバーサルな意識の醸成とスポーツへの関心を高めることができた。また、フィンランド共和国への交流派遣事業や提言発表を実施し、地域社会やグローバルな課題に自ら考え行動できるような活動の支援等を行った。予定していた事業以上の取り組みを行うことができた。</p>		8.8	改善し継続
課 題			
<p>ユニバーサルの意識の醸成を高めていくために、障がい・障がい者理解教育についての取り組みを今以上に行う必要がある。また、「将来の隣人」である子どもたちにふるさとへの愛着・誇りを持つような取り組み及び外国人旅行者受入のための環境整備に努めてゆく必要がある。</p>			
主な事業内容と実施状況			実績評価
<p>○ユニバーサルの推進 誰もが幸せと感じるまちづくりの推進として、障がいについて知るセミナー及び講演会を4回実施した。スポーツを通して障がい、障がい者について考える取り組みを行い、今以上に誰もが幸せを感じるまちづくりの意識の醸成を図った。</p>		9	
<p>○スポーツの推進 ゴールボールの出前講座を8回実施し、ノルディックウォーキングの普及振興については実施目標として掲げていた年1回の普及活動を行った。 ゴールボールに特化した合宿については今年度は実施に至らなかったが、次年度は実施できるように計画を進める。 スポーツの推進として過去にパラリンピックに出場した選手を邑南町に招聘し、小中学校を訪問、町民に対して体験会を1回ずつ実施した。</p>		8	
<p>○カルチャーの充実 オオサンショウウオの全国大会及び久喜大林銀山のシンポジウムなど、ふるさとへの愛着を図るための取り組みを実施した。また、フィンランド共和国への派遣事業を通して自国の文化だけでなく他国の文化を知ることができた。次年度以降はフィンランド共和国への文化を学ぶ教室等の実施を計画してゆく。</p>		9	
<p>○ヒューマン 実施目標として掲げていた商工会青年部との連携を行い、町に対して提言発表会を実施した。町内の中高校生に対し日本だけでなく、世界に目を向けるグローバルな意識を養うためにフィンランド共和国への派遣事業を実施した。 今後もグローバルな意識を養うためにフィンランド共和国への派遣事業を実施する。</p>		10	
<p>○インバウンド フィンランド共和国への派遣を通して、実際に海外に行くことで外国人旅行者への受け入れ、おもてなし等の環境整備について学ぶことが多くあった。 また、町内の宿泊施設と2020年に向けて外国人旅行者の受け入れについての環境整備等について協議を行った。</p>		8	

II 社会教育 [生涯学習課]

施策3 「学び」と「交流」で繋がる公民館事業

～魅力ある地域を支えるリーダーの育成～

事務事業名		①公民館の整備・充実	
総合点検・評価		総合評価	継続、廃止等
<p>地域課題の発見からその解決へ向かった地区別戦略プランの策定にあたり公民館としての役割である「学びと交流を支援する場であること」を確認しながら地区の住民の方の幸せを常に考えながら公民館運営に取り組んだ。また、そのために公民館職員の資質向上とレベルアップに努めた。</p>		9	改善し継続
課 題			
<p>地区別戦略プランはそれぞれの公民館エリアの進捗状況も違うし公民館職員のかかわり方も違っている。何が、どの活動が公民館活動と繋がっていくのか判断して支援をしていく必要がある。</p>			
主な事業内容と実施状況			実績評価
<p>○公民館活動の推進 ・各地域の住民の要求と課題を把握し、公民館活動推進協議会を中心に活動計画の策定を行い、各種学級・講座等の学習活動の推進に努めた。</p>		9	
<p>○地域づくりへの支援 ・地区別戦略プランは12地区公民館エリアで取り組みが行われ「学びと交流」で繋がる公民館事業や地域づくりをする「人づくり」の支援をした。それぞれの地区によって公民館職員のかかわり方が違う。</p>		9	
<p>○生涯学習情報の提供 ・公民館行事や様々な情報をケーブルテレビ、公民館だより等で定期的に情報提供を行った。 公民館だよりを毎月発行し、各館と元気館ロビーに公民館紹介コーナーを設け、紹介した。 公民館の行事や情報はケーブルテレビを活用して発信した。ケーブルテレビにおいて制作番組「伝えたいこの子らにわれらみちばた学芸員」として2つの公民館を紹介した。「ハツミミ」コーナーで1公民館を放送した。 ・町民大学や講演会等の内容に合う図書の展示に努めた。</p>		9	

事務事業名		②健康・福祉に関する学習	
総合点検・評価		総合評価	継続、廃止等
<p>高齢者を対象に、運動教室や生きがいづくり事業、ボランティア養成にかかわる事業の支援をした。保健課や福祉課と連携して月例ウォーキングを行いウォーキングを通じて健康の維持増進のための意識啓発や健康づくりに役立つ学習会の相談を受けた。</p>		9	改善し継続
課 題			
<p>「自らの健康は自らが守る」という意識づけが必要であり、併せてサークルのリーダーの養成をする。</p>			

主な事業内容と実施状況	実績評価
<p>○健康増進事業の推進</p> <p>・健康づくりを目的に保健課と連携して、公民館単位で毎月ウォーキングを開催した。最近、参加者数が減っているのでコース選定においては、公民館がもっている情報を提供し、より参加者によるこぼれるコース選定をした。参加者は572名で昨年より増えている。</p>	9

事務事業名	③多様な分野の学習の場の提供	総合評価	継続、廃止等
総合点検・評価		8.6	改善し継続
<p>多様な世代の要望を把握し幅広い学習をするためにその環境を整え、公民館同士の連携により多彩なプログラムを遂行できた。実施計画に予定していた事業はきちんと開催することができた。</p>			
<p>課 題</p> <p>今まであるものに違ったものを加えて新たな価値を見出す、PDCAサイクルを基本として多様な分野の学習機会に対応していく。また、法律や町条例等を熟知して公民館運営に携わる必要がある。</p>			
主な事業内容と実施状況		実績評価	
<p>○男女共同参画の推進</p> <p>・石見一步の会やスキップの会と連携して、事業を展開したり団体の支援活動を行った。</p>		8	
<p>○平和教育の推進</p> <p>・29回目を迎えた公連協主催「歩こう広島まで」の参加者は78名であった。幅広い年代の参加者が、身をもって学ぶ平和教育に取り組む事ができた。中高生の参加が増えている。平和について学ぶ機会に中高生の参加者が増えたのはとてもいいことだと思う。</p> <p>・平和学習会として被爆体験証言者による講話を聴いた。(1回)</p>		10	
<p>○人権教育の推進</p> <p>・公民館で行う学級・講座や様々な活動を通じて人権教育を推進した。特に各公民館で年1回以上開催するよう計画し実施した。</p> <p>公民館主事も段階に応じて全員が基礎講座や専門講座を学んだ。</p>		9	
<p>○環境教育の推進</p> <p>・自然観察会を複数館で開催した。</p> <p>・邑南町公民館連絡協議会で行ったおおなんサマーボランティアリーダー研修では三瓶登山をし、自然観察を含めた環境学習を行った。参加児童25名</p>		8	
<p>○高齢者学級の開催</p> <p>・運動教室や認知症予防教室の要望を受けて学習支援や情報提供を行った。</p>		9	
<p>○成人学級の開催</p> <p>・個々の能力開発が推進されるよう、成人学級を開催しその成果を公民館まつりで発表した。</p>		8	
<p>○現代的課題講座</p> <p>・地区別戦略プランに関する学習会を行った。</p> <p>・年齢に応じたサークルの立ち上げ(田所公民館)</p>		8	

<p>○ふるさと教育の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ふるさと講座のテーマ「邑南町の匠」 講演会や現地観察会を行い、2講開催した 第1講：(株)トリコン見学会(現地見学会) 参加者23名 第2講：寿老味噌醸造本舗 今田鍛冶屋見学会(現地見学会) 参加者16名 計39名 	9
<p>○地域力醸成プログラム推進事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域のお宝を語り継ぐふるさと学芸員をふるさと教育の講師としてお願いした。 	8
<p>○高校生を対象とした講座の開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高校卒業生を対象に「18歳のためのはばたき講座」を実施した。(場所：矢上公民館) ・テーマは1日目が保健課と連携し「食と健康について」、川本警察署による「犯罪被害にあわないために」「護身術」、2日目は島根労働委員会による「ワークルールを学ぼう」と題しそれぞれ学習した。 ・2日間で106名の生徒が参加した。 	9
<p>○館々交流の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・石見地域公民館合同で通学合宿を行った。瑞穂地域でも2館合同通学合宿を行った。 ・石見地域小学校交流事業→井原公民館でけん玉教室(昨年に引き続き) ・邑南サマーボランティアリーダー研修(1泊2日)人間関係づくりゲームや三瓶登山 場所：三瓶青少年交流の家 参加者25名 	9

事務事業名	④学習成果発表の場の充実		
	総合点検・評価	総合評価	継続、廃止等
<p>総合点検・評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公民館活動の成果発表の場として、各公民館で公民館まつりや文化展が盛大に開催された。日和公民館は新たに公民館まつりを開催することができた。 ・島根県の地域力醸成チャレンジプロジェクトに採択された2館(市木公民館と日貫公民館)は島根県の公民館研究集会においても取り組んだ優良事例発表を行った。 ・邑南町公民館研究集会においても優良公民館として長野県飯田市公民館からもきていただき布施公民館と出羽公民館と絡ませ、今後進むべき道や方向性を学ぶことができた。 		8.6	改善し継続
<p>課題</p>			
<p>新たに公民館まつりを立ち上げた日和公民館においては今後継続して取り組んでいきたい。</p>			

主な事業内容と実施状況	実績評価
<p>○公民館まつり・文化展の開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公民館における各種サークル学習活動の成果発表の場として、公民館まつり・文化展を開催した。 ・公民館まつり・文化展の開催（各1回） 	9
<p>○教室・サークルの支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・住民の要望にあった教室・サークルを紹介・支援した ・公民館だより等でPR、サークル紹介を行った。 	8
<p>○公民館研究交流集会</p> <p>「地域創成戦略プランと公民館の役割価値づけ」をテーマに各公民館エリアで作成されたプランをどのようにかかわっていくか研究した。長野県飯田市の公民館とも情報を共有し両方の市町の事例を踏まえながら今後の方向性を見出した。</p>	9

事務事業名	⑤相談窓口		
総合点検・評価		総合評価	継続、廃止等
<p>邑南町公民館連絡協議会の活動は多くの公民館が関わるので単館で行う事業により幅広く対応できた。より多くの地域課題の解決の学びとなった。</p> <p>邑智郡公民館連絡協議会においては、他の町村の情報を参考にでき邑智郡の社会教育の底上げの一助になった。</p>		9	改善し継続
課題			
<p>年々相談業務が増えており、サービスの低下にならないようにする。</p>			
主な事業内容と実施状況		実績評価	
<p>○相談窓口の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・町民の学習に関する相談に対して教育委員会・公民館で指導・助言を行い、学習意欲の高揚と人材育成を図り、また、その他の相談についても他機関への取り継ぎを行った。 ・各種情報提供や相談に応じた。 		9	
<p>○広域での連携強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年に1回邑智郡公民館連絡協議会で3町合同の研究集会を行った。他町村の公民館主事と交流し情報交換した。テーマは「いまさら聞けない公民館のこと」として研修した。参加者43名 		9	

II 社会教育 [生涯学習課]
 施策4 図書館

事務事業名	①図書館の整備・充実		
総合点検・評価		総合評価	継続、廃止等
<p>「第2次邑南町子ども読書活動推進計画」に基づき、関連機関が課題を提示することで、連携し課題解決に向けた取り組みを実施することができた。新規購入、相互貸借、団体貸出を活用し図書館利用者の要望に応えることができた。館内の環境を整え、利用者がより活用しやすい滞在型図書館づくりを目指した。成人式に贈る書籍の見直しを行い、郷土に関連した書籍を選書した。</p>		9.7	改善し継続
課 題			
<p>今後も成人への読書啓発活動の推進を積極的に行う必要がある。また、子どもたちを取り巻く環境の変化に対応し、親子読書のあり方について、さらに力をいれて普及させる必要がある。加えて、郷土資料の収集、整備、活用にも力をいれたい。</p>			
主な事業内容と実施状況			実績評価
<p>○新規図書の購入 ・蔵書構成、利用者のニーズを考慮し資料の充実に努めた。学校図書館の調べ学習に対応できる資料の収集。新規購入 児童書 899冊、一般書 823冊</p>			10
<p>○県立図書館特別貸出の活用 ・石見地区、羽須美地区は公民館に県立図書館の図書を設置し住民の読書に供している。 ・借受冊数 3,000冊</p>			10
<p>○読書普及活動の推進 ・子どもが自らの課題を見つけ、考え、解決する力を養うため、学校司書と連携し、「邑南町おすすめ本」のリストを児童生徒に活用してもらうよう配布した。 ・感性やコミュニケーション能力を育み、子どもの生活を豊かにすることを目的とし、保育所・園、小学校、中学校からの要望に対し、読書ボランティアとの調整を行った。 ・邑南町子ども読書推進会議を1回開催し、「第2次邑南町子ども読書活動推進計画」の進捗状況を確認し、今後の計画について話し合いをした。 ・平成26年度から公民館と連携し、講演会等に関連書籍を展示し、成人への読書啓発を行った。(10回) ・個人貸出 40,278冊、団体 8,606冊 目標値に達した。(目標値 37,000冊) ・ブックスタート 0歳児 58人、1歳6カ月児 85人、3歳児 71人へ絵本を手渡し、親子読書の大切さを伝えた。 ・子どもたちへ読書の関心を高めるために、三館めぐり、ぬいぐるみのお泊り会(2回)夜のおはなし会を実施した。また、毎月の展示に工夫をこらした。読書ボランティアの協力により、あそびのつどい(2回)、大人のためのお話会(2回)、おはなし会(12回)を開催した。</p>			9
<p>○20歳のブックスタート事業 ・推薦図書の選定及び読みたい本を取りまとめ贈呈した。対象者数102名</p>			10

II 社会教育 [生涯学習課]

施策5 人権教育

～不合理な差別を許さない人権教育と啓発の深化～

事務事業名	①人権・同和教育		
総合点検・評価		総合評価	継続、廃止等
<p>町全体としての取り組みは、実施目標回数等達成することができた。また、平成26年度から取り組んでいる各種団体の啓発推進者への講座も開催できた。学社連携啓発プログラム教材の作成については2作を並行して作成した結果、完成度は90%だった。</p> <p>研修会のアンケート結果では、「できることからやっっていこうと思いました」等行動へと向かう前向きな感想が増えてきている様子がうかがえる。</p>		8.4	改善し継続
課 題			
<p>講演会への参加者の固定化がみられるので、内容や告知の方法を継続して検討していく。また、作成した学社連携啓発プログラム教材を活用し、小グループ、保護者会等への啓発が必要と考える。</p> <p>また、各種団体の啓発推進者対象の講座を継続して開催していくことが必要である。</p>			
主な事業内容と実施状況			実績評価
<p>○職員研修 ・職員研修を7月と12月に実施し、また、県・各種団体の実施する各種研修会（36回 230名）にも参加した。今後も継続して、職員研修はできるだけ全職員が参加するよう関係課と連携して働きかける。</p>		8	
<p>○各種団体への啓発 ・町及び公民館の主催する研修会・学習会を職場研修としたことで参加職員の微増した。また、邑南町人権啓発推進講座へ各種団体から参加があった。16団体+役場+公民館 29名</p>		9	
<p>○邑南町人権・同和教育推進協議会との連携 ・年3回の研修会を開催した。また各種研修会へ参加した。研修会はケーブルテレビの長尺番組で放送された。しかし参加者の固定化がみられる。</p>		8	
<p>○進路保障学社連絡協議会の開催 ・人権・同和教育と進路保障の推進状況、支援等の必要な児童生徒についての情報交換等を行った。石見、瑞穂、羽須美地域～学期に1回開催した。</p>		9	
<p>○公民館人権教育プログラムの立案 ・プログラムについては、学社連携啓発プログラム教材1号「部落史の出会い直し～江戸時代まで」を使用して研修会を開催した公民館が3館実施。また、研修会も12の公民館全てにおいて開催し複数回開催の公民館があった。12館で計16回開催、449名の参加。</p>		8	

II 社会教育 [生涯学習課]

施策6 文化行政

～郷土の文化や文化財を大切に、

愛郷心を育てる事業の推進や活動の充実～

事務事業名	①関係施設の整備・充実と有効活用		
総合点検・評価		総合評価	継続、 廃止等
<p>ふるさと教育推進の拠点としての、文化財関係各施設の機能は維持できており、町内小学校の授業の一環として施設利用があるなど、一定の役割を果たした。</p> <p>各施設の情報提供について、施設の活動状況とリンクした情報提供ができた部分もあるが、ほぼ休眠状態の施設もあり、郷土館、ハンザケ自然館を中心としてより積極的な活用が図られるような仕組み作りが必要である。</p>		8.5	改善し 継続
課 題			
<p>郷土館、ハンザケ自然館について、町内の小中学校すべてに授業等で利用していただけるよう、各学校に向け積極的にPRをしていく必要がある。また、町内にある文化財の有効活用のため、収蔵場所や収蔵物品数について把握しておく必要がある。</p>			
主な事業内容と実施状況			実績評価
<p>○郷土館の整備・活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・郷土館の収蔵品の整理は随時行った。 ・展示品の入れ替えを行うなど、展示の充実を図った。 ・来館された方への対応を随時行った。（来館者数：863人） ・郷土館活動推進協議会を1回開催した。 ・企画展を行うことはできなかった。 		7	
<p>○自然館の活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自然観察会を3回行った。 ・自然環境に対する講師を3回行った。 ・特別天然記念物オオサンショウウオの保護及び調査を10回行った。 ・希少動植物及び湿地等の保護や調査を13回行った。 ・オオサンショウウオの人工繁殖を含む研究について、取り組みを行った。 		10	

事務事業名	②ふるさとの歴史・文化に関する学習		
<p style="text-align: center;">総合点検・評価</p> <p>日本オオサンショウウオの会 邑南大会や、久喜・大林銀山遺跡関連講座を実施し、町民が直接文化財に触れる機会を提供できた。このことを通じて、文化財に対する保護意識を醸成するきっかけづくりとなった。 歴史的遺産や文化財、伝統芸能の保護の考え方について、面や範囲でとらえる考え方も加え、指定の有無にかかわらず包括的に文化財を把握し、保護していく方向性も議論する必要がある。</p>	総合評価	継続、 廃止等	7.3 改善し 継続
<p style="text-align: center;">課 題</p> <p>・特に町内に所在する伝統芸能について、継承団体の後継者不足から活動が縮小になるケースもみられており、地域に古くから伝わる伝統芸能が絶えないよう、また、その伝統芸能が地域の誇りになっていくような仕組み作りが必要であり、そこに向かっての仕掛けも今後の課題である。 ・文化財の保護意識の醸成に対するきっかけづくりはできたので、醸成に向けた取り組みが今後重要になってくる。</p>			
主な事業内容と実施状況			実績評価
<p>○文化財の保護・保存・調査</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文化財保護審議会を3回行った。 ・久喜・大林銀山遺跡調査事業報告書の作成はできなかった。 ・久喜・大林銀山遺跡調査指導委員会を2回行った。 ・各種開発協議に伴う埋蔵文化財協議を19件行った。 ・久喜床屋製錬遺跡について、町史跡指定を行った。 ・久喜製錬所跡煙道の保存対応について、保存に資する図面の作成を行った。 ・旧山崎家住宅茅葺屋根葺き替え工事設計について、完了した。 ・ビオトープ水田復元工事について、完了した。 			8
<p>○文化財の活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・出前講座の講座名「ふるさとを学ぼう」等で7回対応した。受講者は累計108名だった。 ・久喜・大林銀山遺跡関連講座を1回、2日間にわたって開催した。来場者は累計100名だった。 ・日本オオサンショウウオの会 邑南大会を2日間にわたって開催した。来場者は累計400名だった。 			9
<p>○伝統芸能の保存伝承の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・伝統行事「次の日祭（傘鉾）」に参加する羽須美中学校生徒に対して事前学習会を行った。生徒は傘鉾の制作にあたり、町内他校の中学生の協力を得て共にこれを完成させた。 ・町内伝統芸能の保存継承支援について、関係団体に対するアンケートや聞き取り調査等の基礎的な情報収集の動きができなかった。 			5

事務事業名	③芸術・文化に関する学習		
総合点検・評価		総合評価	継続、 廃止等
<p>「邑南の自然・景観写真展」を開催し、町内外から作品を募集することで、町内の多種多様な自然の大切さに応募者が気付く機会となるとともに、応募者が写真を撮影することを通じて自己表現の機会ともなっており、芸術・文化活動の実践の場となっている。</p>		10	継続
課 題			
<p>・ 邑南の自然・景観写真展を複数館で行うことでより多くの地域住民に、邑南町の自然の大切さを啓発する必要があるとともに、写真展の応募者について、多くの方から応募していただけるような工夫が必要である。</p>			
主な事業内容と実施状況			実績評価
<p>○芸術・文化活動の支援 ・ 自然館及びほたるの館において、「邑南の自然・景観写真展」を2回開催し、1,617名の参加者があった。</p>			10

II 社会教育 [生涯学習課]

施策7 社会体育

～生涯にわたるスポーツの実践と夢、感動を与えることのできる人づくり～

事務事業名	①生涯スポーツ活動		
総合点検・評価		総合評価	継続、廃止等
<p>ノルディックウォーキングやゴールボールの影響もあり、町全体が何かのスポーツに取り組む姿勢が見えてきた。高齢者は軽スポーツやレクリエーションなどを手軽に健康維持ができることを推進した。また、邑南町スポーツ推進委員が新たに障がい者スポーツについて自らから学び福祉施設での交流を展開した。邑南町体育協会も様々な大会等を自主運営し、生涯スポーツの要として心身の健康づくりやスポーツの普及に寄与した。また、バスケットやバレーボールのトップアスリートの力をかり本当に学びたいことを教室のプログラムとして組み専門的な技術を学んだ。</p>		9.7	継続
課 題			
障がい者スポーツの学びとそれを推進するリーダーの育成する。			
主な事業内容と実施状況			実績評価
<p>○スポーツの普及拡大 ・スポーツ推進委員が研修で学んだことを地域の中で活かせるよう推進委員同士で学び子どもたちの余暇活動で公民館と連携して活かしたり、職場内で軽スポーツを推進した。(ラダーゲッター)その成果を中国地区スポーツ推進委員研修会でも実践披露した。その自信が邑南町スポーツ推進委員協議会の組織強化につながった。</p>		10	
<p>○生涯スポーツの支援 ・体育協会、スポーツ推進委員及び既存のスポーツ団体と連携をし、各種大会や交流会を実施し、町民の交流、一体感の醸成に努めた。 ・各団体と協力し、それぞれの団体の運営を尊重し大会、交流会を実施した。 ・関係団体主催の行事に積極的に参加協力 (邑南町バレーボール大会、親善ソフトバレー大会、邑南町長杯野球大会、邑南町長杯ファミリーバトミントン大会、邑南町グラウンドゴルフ大会など)</p>		9	
<p>○スポーツにふれあう機会の提供 ・出前講座等で軽スポーツの紹介及び啓発を行った。 (出前講座 11回 参加者数 337名) ・健康サポートリーダーを育成し、軽スポーツを広めた。(年1回)</p>		10	
<p>○スポーツ教室の開催 ・夢授業「島根スサノオマジック」のスポーツ教室を開催した。(小学校5校 90名) ・NECバレー教室は事前に各教室で何を学びたいか目的を明確にしたので参加者や保護者にも評価が高く内容が充実していた。また、終わってから体育協会や学校や指導者と振り返りをきちんとしたので来年につなげることができる。(教室参加者71名)また最終日にNECのチームによる紅白戦が行われ、トップアスリートの試合を多くの町民が観戦した。(105名)</p>		10	

II 社会教育 [生涯学習課]

施策8 地域づくりの推進

～個性と活力に満ちた地域協働体制の形成～

事務事業名	①出前講座		
総合点検・評価		総合評価	継続、廃止等
各課で事前に必要課題について検討し、新規のメニューを8個増やした。全82個のメニューにより受講希望の団体の希望に沿った講座等開設できた。		10	継続
課題			
この講座をきっかけに、自主的に活動を起こしていくなどの動きが確認できなかった。(あくまで要求課題に対しての取組) 今後、出前講座を受講後の各団体の自立に向けた動きの検証等、方法を含め検討していく必要がある。			
主な事業内容と実施状況			実績評価
○出前講座の充実 ・町民憲章の達成に向け、町職員が地域に出向いて講座を実施し、130講座3,254人の参加を得た。			10

事務事業名	②住民自治による地域づくりの推進		
総合点検・評価		総合評価	継続、廃止等
地方創生に関して、地区別戦略の基礎となるものとして募集したものの、今年度は新規、継続ともに申請は無かった。		8	改善し継続
課題			
本町が進める地域づくりに関しての施策等、多岐にわたるため、住民自治の視点からの情報提供や周知方法を工夫すべきだと感じた。特に、小集団地域での固有な課題解決に向けた取組みについて、確実な情報提供に努めなければいけない。			
主な事業内容と実施状況			実績評価
○夢づくりプラン策定の支援 ・地域の総合振興計画策定を意識した地域課題解決のための手法等のための学習の場の提供を行った。新規の申請にはつながらなかったが、この取り組みが結果的には地区別戦略のベースとなり、住民の地域づくりへの気運が高まった。			8
○夢づくりプラン推進のための支援 ・対象となる地域が無く、今年度は実施していない。			

事務事業名	③食育の推進		
総合点検・評価		総合評価	継続、廃止等
食育推進委員会を開催し、第2次食育推進計画の検証と第3次食育推進計画を策定した。			

課 題	9.5	改善し 継続
<p>計画内で毎月19日を「食育の日」と謳っているものの、活動できていない。今後活動内容を検討する必要がある。</p> <p>また、食育推進委員会自体が実働部隊ではないため、確実に各部会の活動状況を把握する必要がある。併せて、各部会の活動を明文化し、講評していく必要がある。</p>		
主な事業内容と実施状況		実績評価
<p>○食育推進計画の見直し</p> <p>・食育推進委員会で、第2次食育推進計画の検証や上位計画である国の食育推進基本計画を分析し、第3次食育推進計画を作成した。</p>		10
<p>○食育の推進</p> <p>・食育推進計画の具現化のため、特に各課及び関係機関との有機的な連携を図ることに努めた。</p> <p>・「食のボランティア」という食に特化したボランティアの人材バンクを立ち上げ、学校や公民館活動を支援した。</p>		9

事務事業名	④健康センターの活用		
総合点検・評価		総合評価	継続、 廃止等
<p>平成28年度健康センター元気館の利用者数は32,778人と前年度と比較して10%減となった。</p> <p>イベント、会議の利用は増加したが、アリーナの利用は減少した。</p>		8	改善し 継続
課 題			
<p>パラリンピックキャンプ地誘致に向けての啓発、施設の充実等を図る必要がある。</p>			
主な事業内容と実施状況		実績評価	
<p>○健康センターの活用推進</p> <p>・NECレッドロケッツ合宿誘致、パラリンピックキャンプ地誘致に向けてパラリンピック競技体験会、ゴールボール体験教室及び講演会、NHKラジオ「上方演芸会」公開録音等スポーツ・文化分野での事業を実施した。</p>			8

Ⅲ 学社連携教育 [学校教育課／生涯学習課]

施策1 学校・社会教育の連携の推進

事務事業名	①人権・同和教育の推進		
総合点検・評価		総合評価	継続、廃止等
学習プログラムを学校、公民館等から計6人のスタッフで検討会議を行い2作並行して作成。啓発については3館開催した。		8	改善し継続
課題			
各団体に続けて学習できるように次作のプログラム教材についても検討会議を重ねながら作成していく。			
主な事業内容と実施状況			実績評価
○人権・同和教育研修 学校人権・同和教育の学習プログラムを学校と公民館とで共同で2作並行して作成。また、地域への啓発に向けて公民館主事及び同和教育主任に説明及び啓発のお願いをした。プログラムでの啓発は3館実施した。			8

事務事業名	②ふるさと学習		
総合点検・評価		総合評価	継続、廃止等
地域への思いを共有するために学習機会や発表する場を設け、子どもたちがふるさとについて学び見つめなおす機会となった。		8	改善し継続
課題			
学校・地域が相互理解の上に連携し、それぞれの役割を果たし目的意識をもちながら進めていくことが必要である。			
主な事業内容と実施状況			実績評価
○ふるさと学び合い講座 ・ふるさと教育担当者会を3地域で開き、ふるさと教育の進め方についての話し合いを行った。(各地域1回) ・各校で児童生徒が地域の方たちと共に学び、実践したことを「おおなんドリーム学びのつどい」で発表した。			8

事務事業名	③食育の推進		
総合点検・評価		総合評価	継続、廃止等
学校給食の提供と地産地消の推進は継続して取り組んだ。 「食育」の推進として、地産地消を取り入れた安心安全な学校給食の提供に取り組んだ。		7.6	改善し継続
課題			
地産地消の推進活動では夏場の天候不順による野菜の高騰などの影響により地産地消率が前年度比△6.1%であった。これらの状況にも柔軟に対応した学校給食事業の提供と食育の推進を図る必要がある。			

主な事業内容と実施状況	実績評価
<p>○学校給食センター</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2か所の学校給食センターの運営補助と継続した支援を行った。 ・安全安心な給食の提供に努め、献立や給食だよりの発行などを通じて情報を発信し、継続した食育の推進を図った。 	9
<p>○地産地消の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・引き続き給食センターに生産者と調理場をつなぐ地産地消コーディネーターを配置し、地元食材の調達などの業務を専門的に取り組んだ。今年度は新たなコーディネーターが配置され、一年目の業務にも積極的に取り組まれたが、地産地消率は前年度と比較して減少となった。地産地消の推進として、食材費の一部(地元野菜)及び石見和牛肉購入費の一部も継続して町負担とした。 ・今年度も地元食材を東・西両センターで積極的に活用するよう地産地消コーディネーターを中心に栄養教諭、調理師の意思統一に努めた。 	7
<p>○一校一菜プロジェクト</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各学校で農産物を育て、それを学校給食や地域の人と食することで、生産から消費までの一貫した過程を体験することを目的とし、11校取り組む計画であったが、一部の学校で実施できなかった。 	7

事務事業名	④読書の普及		
総合点検・評価		総合評価	継続、廃止等
<p>学校司書との連携により、邑南町おすすめの本リストを活用し子どもたちの読書の質をより高めることができた。また、調べ学習に適した資料の収集により学校図書館へのバックアップが充実してきている。</p> <p>図書館での各種行事や学校での読書普及活動に読書ボランティアの協力を得て開催することができた。</p>		9	改善し 継続
課 題			
<p>資料の見直しをおこない、今後も学校図書館をバックアップしていくための資料収集に努める。</p> <p>読書ボランティアの研修会を開催し資質の向上に努め、ネットワークづくりを推進する。</p>			
主な事業内容と実施状況		実績評価	
<p>○読書の普及</p> <ul style="list-style-type: none"> ・読書ボランティアの協力を得ながら、読み語り、ブックトーク、ストーリーテリングなどの読書体験の普及を図った。 ・学校での調べ学習等のレファレンスに対応し、資料の収集を行った。 		9	
<p>○読書ボランティアの研修</p> <ul style="list-style-type: none"> ・読書活動推進のため、県立図書館主催行事に参加し(1回)読書ボランティア研修会を1回実施し読書ボランティアの資質の向上及び連携・協力を図った。 ・町内には、読書ボランティアの方が約120名おられ、小学校や中学校で朝の読み語り等に関わってもらっている。また、図書館での行事等に参加、協力してもらっている。 		9	

資料：教育委員会の点検・評価及び公表に係る自己評価の考え方

【総合評価】 主な事業内容の実績評価をもとに総合的に判断する。実績評価の平均点で表示する。

【継続、廃止等】 「総合点検・評価」及び「課題」をもとに今後の方向を示す。「継続」、「改善し継続」、「廃止」のいずれかを表示する。

【実績評価】 「主な事業内容と実施状況」欄にある事業内容ごとに実績に対する評価を行う。数値化可能なものは、目標達成度・主要成果を考慮して10段階評価することとし、それ以外は、総合判断と同じく10段階評価することとする。

■実績評価の点数について

*業務（事務）目標がどの程度達成されたか

評点	達成度合	数値化可能な場合の基準*1	数値化できない場合の総合判断の基準
10	目標どおり以上の成果を達成	達成水準どおり（100%以上）の成果を挙げた	期待どおり以上の成果を挙げた
9	ほぼ目標に近い成果を達成	達成水準に対して90%以上の成果を挙げた	ほぼ期待どおりの成果を挙げた
8		達成水準に対して80%以上の成果を挙げた	今一步、期待どおりの成果に至らなかった
7	目標を未達成	70% "	期待どおりの成果には、至らなかった
6		60% "	
5		50% "	
4		40% "	
3		30% "	
2	目標を著しく未達成	達成水準に対して30%未満の場合	期待を大幅に下回る結果となった
1		達成水準に対して10%以下	

*1 数値化可能な場合の基準

①目標達成度：次の4つを勘案し、関連するものの数値の平均を求める。

ア（回数実施率） 実施数／目標数 イ（定員充足数） 実人数／目標数 ウ（予算執行率） 実施額／予算額

エ（費用対効果） 事業費／講座参加者数 ①及び②で該当があれば、個々に点数化し平均点を事業内容ごとに点数化。①②のどちらにもない場合は総合判断とする。

②主要成果：アンケート結果の声から数値化